

水道施設整備計画

令和4年7月
Vol. 16

ハダノ
上下水道物語



秦野市では、災害に備えた整備や老朽化した施設の更新など、全国の水道事業者が同様に抱える課題を解決するため、水道事業の施設整備を次のとおり計画し、取り組んでいます。

| 基本施策 | 主な取組み | 取組み時期 |
|------------|-----------------|---------|
| ① 水源の確保 | 芹沢取水場の更新 | R3～4年度 |
| ② 効率的な施設整備 | 基幹管路(導・送水管)の耐震化 | R3～12年度 |
| | 配水管路の耐震化 | |
| | 幹線管路の耐震化 | R3～9年度 |
| | 配水場の耐震化 | R4～12年度 |
| ③ 耐震化の推進 | 本町第5取水場の更新 | R4～6年度 |
| | 機械・電気設備等の更新 | R3～12年度 |
| | 寺山配水場の更新 | R4～6年度 |
| | 施設の統廃合 | R8～12年度 |
| ④ 災害対策の充実 | 八幡山配水場廃止に伴う管路整備 | R4～12年度 |
| | 給水車給水拠点の整備 | R3～4年度 |
| | 非常用自家発電設備の整備 | R3～12年度 |

check

check

check



水道マスコットキャラクター
Dr.おいどー

水道施設整備計画は、令和3年度からの上下水道局の具体的な行動を示すため策定しました、「はだの上下水道ビジョン」(令和3年3月策定)の計画期間内における施設整備の計画です。「はだの上下水道ビジョン」についての詳細は、第1話をご覧ください。

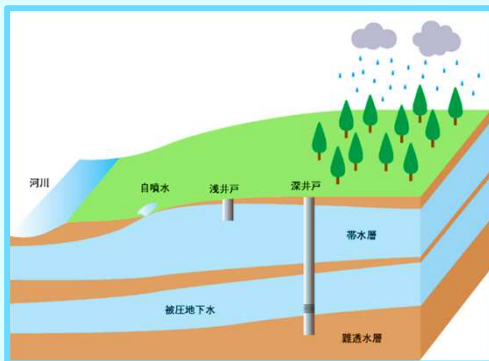
令和3年度の実績

芹沢取水場の更新

秦野市では、地下水を取水している井戸(施設)が市内に40箇所あり、その大半が昭和40年代に整備されたものです。一般的に井戸の寿命は約50～60年とされているため、計画的な井戸の整備・更新を進めています。

今泉地区にある芹沢取水場も地下水を取水する施設で、令和3年度に浅井戸から深さ約70mの深井戸へ更新する工事を行いました。この更新工事で、1日当たり約1,800立方メートル(小学校のプール約6杯分)を汲み上げることができるようになりました。(更新前の浅井戸では、1日当たりの可能な取水量が、500立方メートルでした。)

更新工事後の深井戸は、今年度に電気・機械設備の工事を行い、令和5年度から利用開始の予定です。



浅井戸と深井戸

<出展(イラスト):公益社団法人 日本水道協会>

浅井戸 深さ10～30mの地下水を取水する井戸
深井戸 深さ30m以上の地下水を取水する井戸
→地表からの影響を受けにくいため、水量・水質ともに安定した地下水を得ることが可能



井戸掘削機(通称:やぐら)

掘削後の井戸の洗浄及び揚水試験



安全でおいしい水道水の水源を確保するため、深井戸への切替に取り組みんでいます。



管路の耐震化

秦野市では、昭和40年代にかけての高度経済成長期の人口増加に伴う、急増した水需要に対応するため、集中的に水道管の整備を行い、現在では、約732kmの水道管が地中に埋設されています。

埋設されている水道管は、今後、耐用年数を迎えるため、更新・耐震化工事を計画的に進めており、特に、広域避難場所や病院などの重要拠点に対して、水道水を安定して供給するための整備を優先的に進めています。

令和3年度は、基幹管路(導水管・送水管)については、1,681mの延長整備を行い、配水管については、3,437mを耐震管路(柔軟性があるダクタイル鋳鉄管など)へ布設替えしました。



約732kmは、秦野市から本州最北端の青森県大間町までの直線距離に匹敵する長さです。



配水管(直径20cm)の更新・耐震化工事の様子



送水管(直径60cm)の更新・耐震化工事の様子



いつ起こるか分からない大規模災害に備えて、計画的に更新・耐震化を進めています。

給水車給水拠点の整備

秦野市では、大規模災害時に起こりえる広域的な断水に備えて、広域避難所や災害時の医療救護所への運搬給水を迅速かつ確実にできるように、給水車へ給水するための拠点の整備を進めています。

令和3年度は、西・北地区の給水拠点として、堀山下浄水場の場内を整備しました。

給水用貯水槽(容量9m³)

堀山下浄水場の平面図

管理棟

県道

堀山下浄水場

給水車用給水栓

災害時用給水所(蛇口4箇所)

災害時用給水所活用イメージ

今年度は、本町・南地区の給水拠点として、曾屋にある六間(ろくま)配水場の場内に整備を予定しています。